

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 。 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	年	月	日
事業所名				
ユニット名				
事業所番号				
記入者名	職名		氏名	
連絡先電話番号				

自 己 評 価 票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念は「失われゆく能力を補って本来の人格を支えます。ご本人にもご家族にもゆとりのある生活を。」としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を共有しその実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・入所時に必ず、また折りに触れて、本人、ご家族にお話ししている。 ・運営推進会議や安城市の介護相談員来所の時にも説明している。 ・安城市の福祉まつりで陶芸の作品展示をしたときには、展示作品の上に理念の印刷された看板を掲げてアピールした。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・隣近所の人と挨拶、気軽に声を掛け合う等している。散歩や買い物ときが多い。近所に自宅のある利用者さんは昔馴染みの方に声をかけられたりしている。 ・日常的なつきあいについては利用者のプライバシー保護に配慮しながら行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の一員として回覧板を受け取っている。 ・町内の一員として町内運動会（利用者と職員）や消防の訓練、防犯パトロール（職員）、清掃等（職員）に参加している。 ・老人会は、近隣地域内に自宅の住所を持っている人が参加している（例：敬老会）。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の高齢者に声をかけて陶芸教室にきてもらおうと昨年の自己評価に書いた。取組もうとは思っていたが、この一年はない。地域の高齢者は近隣のデイサービスその他のサービス、コミュニティーによく通っている様子。	○	・地域の高齢者の暮らしぶりにもこれまでより関心をもち、事業所にできることがあるか考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価を活かして具体的な改善をしている。例…運営推進会議実施、介護相談員訪問時、利用者の買い物実施、葉は見えない所にしまい手渡しして利用者が飲みきったかを確認している。洗剤は重層に変えしまう場所に気をつけている。ミーティングは一定の時間にはなかなかできないが、日誌を取り入れ合間合間に申送りのかたちで、介助について取り決めたこと等を連絡している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域の防災についての話し合いができた。地震や火事の時について。非難方法を考えることができた。消火器を新しく買った。・民生委員が福祉まつりで展示する盆栽の為に自宅から苗を持ってきて下さった。・ご家族からターミナルケアについてご相談を受け、議題とした。医療の範疇に入るケアについて、一部行政の緩和ができないだろうかという話しが出た。		・医療保険で訪問看護を受けることや医師の往診についての希望があり、同席の市役所の方とも話しあったがなかなか難しいとのこと。ひきつづき検討したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・安城市の介護相談員の来初が月に一度ある。陶芸教室の作品を見て、とても褒めて下さり、市の福祉まつりに参加することを勧めて下さった。昨年秋（2008年）初参加することができた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会は研修で得ている。研修に行った職員が報告することで他の職員も学んでいる。・これまで地域権利擁護事業を利用したときは、社会福祉協議会がコーディネーターとなっていた（その利用者に身寄りがなかったため施設入所時から）。今現在該当者はいない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・努めている。・高齢者虐待防止関連法については、市の研修を受けている。他の職員にも報告。周知徹底している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所契約時に、利用者や家族の不安、疑問点を尋ね、説明を行い、理解、納得をはかっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・月一回安城市の介護相談員が来所し、利用者に意見、不満、苦情があれば話せるようになっている。・重要事項説明書に苦情申し立て先として、管理者、市役所介護保険課、国保連の連絡先を載せている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の健康状態に違和感や異常があれば家族に連絡して対応し、必要に応じて病院の受診について相談している。・金銭面では、場合によっては立替で必要なものを購入する（利用料支払い時に返していただく）。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議に利用者の家族代表が出席してのご意見を伺っている。・外部評価を受けるときの家族からのアンケートがその一つの機会になっている。・何かあればおっしゃって下さいと普段から施設長がお声かけしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・夜勤帯の職員から早番、早番から日勤へ（遅番含め）、日勤から夜勤体の職員へと随時申送りが行われる。そのいずれかに運営者、管理者が入っており、意見、提案を聞く機会としている。また、それ以外のときも随時話を聞いている。・月末にその月の報告を管理者がうける時もその機会となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・努めている。例：朝だけではなく昼からも散歩に行きたいという希望に対応する。・以前、遠方のご家族がホームに宿泊し、久々に親子でゆっくり過ごされることがあったり、ターミナルのご利用者に遠方からご家族が会いにみえて宿泊されたことがあった。その為に必要な調整を行った。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動は必要最小限におさえられていると思われる。・職員が異動でいなくなることで深刻なダメージを受けている利用者は今のところ見受けられない。・新しい職員が入るときは、利用者がびっくりしないようになじみの職員が紹介、仲介する。・職員が新ユニット増設とともに増え、既存ユニットと行ったり来たりすることも利用者へ伝えた。利用者自身が両ユニットを行ったり来たりしてレクリエーションに参加するうち慣れてきた様子。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・進めている（愛知県その他の研修、資格取得のための講習会）出席。・全員ではない。応募しても定員にもれ、参加できないことがある。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・介護保険事業者連絡調整会議、グループホーム部会出席 ・地域居宅介護支援センターの見学を年数回受けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員の勤務の変更願いには必要に応じて柔軟に対応している。・移乗介助等の変なときは無理せず二人体制等複数で行うよう促している。・職員に意見があったときに言いやすい体制をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・努めている。・こうすればもっと楽だよという方法を勧めたりしている。・話し合いながら進めていくことを大事にしている。・利用者に有効な道具、介助具（リクライニングの椅子、テーブル、オムツ等）をたまに見に行き、職員が使いやすいようなものを探す。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご本人が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている。見学に来る人の場合は、その機会を活かして見守りながら「ご希望はないですか？」と聞いている。・中には入所する事に抵抗を示す方もいて、ご家族と相談して、まず入所して直接ご本人に聞きながら対応し慣れていくようにすることもある。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族からいつでも電話できるようになっている。何度でも訪問ができる。・利用者（未定）の状態をよく聞き、こちらがどんな役割をすればいいか等相談して相手がいいと思うかどうか返事を待つ。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・努めている。・他のサービスを受けた方がいい場合、うちの施設を利用された方が適当か、なるべく入所時に見極めるようにする。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・行っている。なじむように2，3回事前の訪問をお願いするけれど、ご家族が入所を急いでいる場合はこちらが病院等に面接に行き、施設でやっていけそうか見極めて、直に入所の場合もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の掃除洗濯、食事作りを一緒にやったり、季節ごとの風物詩を楽しむ外出で一緒にしたり…等々一緒に過しながら喜怒哀楽を共にし、ご本人から学んだり、支えあう関係を築こうとしている。・「長年のご経験からこうされるんだなあ」と関心させられることが多い。・ご家族や職員が旅行のお土産を持ってきて、利用者とお土産話やお茶で盛り上がることもある。	
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状況を報告し、これからの対応を相談し、ご家族の意向をよく聞いて取り組んでいる。2008年冬クリスマス会にご家族に来ていただいて、ご利用者と一緒に食事したり、皆さんのご紹介をし交流の場をもった。	○ 年に二回くらい（夏、冬）こうした会をご家族の皆さんをお迎えして行っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・これまでのことを無理のない範囲でお聞きし、ケアプランアセスメントとして活かす。・可能であれば、こまめに面会に来てもらって本人が家族にどうおしゃっていたのか、何か希望とかこちらにできないことがないか聞く。・家族が遠方の方も関係が途切れることのないように支援したい（例：市内のお墓に職員と墓参、家族が行けなくても大丈夫な様に）。・ご家族からターミナルの相談を受けている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者のご友人や知り合いが訪ねて来ている（ホームが事前に家族の了解を得てから）。・遠方の自宅（なつかしの我が家）へお連れしたことがある。懐かしい人にもあった。・家族が遠方の方も関係が途切れることのないように支援したい（例：市内のお墓に職員と墓参。ご家族が行かなくても行ける様に。）	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・日常の仕事（作業療法的）の分担を職員が考えるときは、それぞれがお互いにありがたうと言えるような割り振りにする。なるべく適材適所に入ってお力を発揮できるように。・新設のユニットの方々と会話や日常の色々なことが合いそうな方はそちらへ移動することも検討。ご本人にお聞きしながら。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・移動後こちらからお見舞い（病院）、面会に行ったり、ご家族から相談を受け（例：社会資源、サービスや制度について、その他）お答えすることがある。・以前の利用者家族から他の利用希望者について紹介、相談されたりする。・以前の利用者家族からボランティア（音楽慰問）のお話をいただく。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所時と入所後も随時、ご本人、ご家族から意向を聞く。例：猫や犬がお好きな方がホームの猫や犬を可愛がったり、希望に応じて居室に連れて行くことができる。・散歩がお好きな方には時間を調整して時間を増やしたり、夜リビングでテレビを見たい方は見られるように、仕事好きな方とは色々な仕事を一緒にしたりしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・特に入所時、ご本人、ご家族（ときには社会福祉協議会の方）にお聞きしながらフェースシートを埋めるようにしてこれまでのことについてお聞きする。・入所してから何かをきっかけにお聞きすることもある。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・特に入所時、ご本人、ご家族（ときには社会福祉協議会の方）にお聞きしながらフェースシートを埋めるようにしてこれまでのことについてお聞きする。・入所してから何かをきっかけにお聞きすることもある。・ご本人がどういう所に興味を示されるか、心身状態、有する力等の現状について現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族、必要な関係者（例：訪問歯科の援助）、介護スタッフと話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。・入所を機会に久々に病院受診、健康診断を受ける方がおられ、なじみの病院、またはホームの協力病院に行くことで余分に飲み過ぎていた薬が減ることがある。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・作成している。入退院の時期の変更など。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録を介護計画の見直しにいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・工夫して対応している（例：リビングにリクライニングチェアを置き寝たきりに近くなった方も引き続き過ごしやすい様にした。・新設のユニットの方々と会話や日常の色々なことが合いそうな方はそちらへ移動することも検討。ご本人にお聞きしながら。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの先生が月に一度来て、陶芸教室をしている。その展示は、市の介護相談員の紹介で福祉まつりで行った。また展示作品の盆栽の為に民生委員が自宅から苗を持ってきて下さった。・近隣の中学校から生徒さんが職場体験に来る。多くの利用者が歓迎し嬉しそうである。・町内運動会に参加。近所の方がサポートして下さる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・希望者は訪問歯科診療を受け、治療している。・ご家族からターミナルケアについての相談を受け、運営推進会議で議題にした。医療保険で訪問看護を受けることや医師の往診についての希望があり、同席の市役所の方とも話しあった。引き続き検討したい。	○	・利用者が趣味でやってきたことの発表の場があったときにはそこで発表できるようにしていきたい（例：おどり、歌、その他）。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・以前は該当者があったが、今現在はそういった事例はない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・できている。通院はできるところは家族が行い、難しいところは施設側が行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・現在は施設自体がつながりのある専門医はいない。家族が利用者を連れて行っているところはある。そしてその情報を大切に聞いている。	○	・今後必要な場合は適切な専門医の紹介を受けたい。（現在利用者が通っている病院等に）
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・以前は看護師が一人いたが今はいないため、直接主治医の指示を受ける、或いは家族が受診に付き添って聞いた指示に従っている。	○	・ご家族からターミナルケアについての相談を受け、運営推進会議で議題にした。医療保険で訪問看護を受けることや医師の往診についての希望があり、同席の市役所の方とも話しあったがなかなか難しいとのこと。引き続き検討したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・努めている。・お見舞のときにできればご本人と話す。嬉しそうにされることが多い。そうしながら状況を把握。・希望に応じ入院中の洗濯をする。洗濯ものを取りに行く。・ご本人、ご家族の意向があれば可能なかぎり居室を空けて帰所されるのを待っている。・病院関係者との情報交換や相談にも努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医療行為をせざるを得ない方には次の所へスムーズに行けるよう支援している。それ以外はなるべくここで過ごせるように支援してきた（そう希望されたケース）。・掛り付け医とは直接話せるケース、ご家族を通してのケースがあるが、ホームでの状況報告に努めている。・ご家族とターミナルについて話し合い、運営推進会議の議題とし、市役所の方、民生委員とも現状とニーズについてシェアした。	○	・利用者とは日常の会話の中でさりげなくどんな感じにしていきたいか触れることもあるが、具体的に話すのは話しにくい。・ご家族は、重度の利用者家族とは自然に話題になることがあり、数名の方とは話しているが全員ではない。・これからは、入所時のフェースシートの中に
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・行っている。・医療行為をせざるを得ない方には次の所へスムーズに行けるよう支援している。それ以外はなるべくここで過ごせるように支援してきた（そう希望されたケース）。・掛り付け医とは直接話せるケース、ご家族を通してのケースがあるが、ホームでの状況報告に努めている。・ご家族とターミナルについて話し合い、運営推進会議の議題とし、市役所の方、民生委員とも現状とニーズについてシェアした。	○	・ご家族からターミナルケアについての相談を受け、運営推進会議で議題にした。医療保険で訪問看護を受けることや医師の往診についての希望があり、同席の市役所の方とも話しあったがなかなか難しいとのこと。引き続き検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	・努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	・プライバシー保護に配慮して、ボランティア受け入れを 慎重に行い、守秘義務について必ず事前に説明している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	・行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	・完全に一人ひとりのペースで全員が暮らせるか？といえ ば難しいところがある。その日をどの様に過ごしたいか、 ご希望のことは…？とお聞きして、意向に沿うようにして いる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	・家族が連れて行ける方はなじみの美容室などに行ってい る。・それなりのみだしなみができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・している。「何か召し上がりたいですかぁ？」と聞いても「何でもいい」という返事が多いので、テレビや雑誌の話題にのせて「これはどお？」と聞いて決めたりする。・楽しみながら一緒に作業する。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・している。・一日4回のお茶の内、2回お菓子がつく。要望があればそれを出すように対応。・お酒、たばこ…要望に対応するが（主治医と相談しながら）現在該当する方はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄しやすいように、ヤクルト400を飲んでいる。・排泄について、出たら教えてくださいというけど、本当に「出たよ」「出ないよ」という返事の通りかわからない時がある。オムツ使用の方は交換時に把握できるのでパターンを参考にしている。・紙パンツとパットの使用が不自由な方はタオルと布パンツに変更した。	○	・以前は、24時間の排泄チェック表を使っていたが（オムツ、ポータブルトイレの方）最近は試しに形式を変えて日誌に欄を作り、24時間排泄チェック表は使っていなかった。だが、必要に応じ再度使ってみたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・そこまではできません。こちらの決めた時間内でやっている。人員のいる午後2時から4時で行うことが多い。・なかなか寝付けられない方や入所間もない方が夜入浴することがある（希望をきいて）。・血行が悪くなっているときに足浴をする。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・している。希望に応じて湯たんぽ（夏：冷たい枕）を出したり、足浴をしたりする。室温、掛物、衣服の調整は、暑過ぎて汗を沢山かいたり熱中症にならないように、寒すぎて体調を崩さないように気をつける。・夜間の水分補給も行う。・夜間の移動の為常夜灯点灯。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・身体的レベルやモチベーションが個人で違うので完全には言えないがある程度（半分から7割）はできていると思われる。調理他作業的なことは出来栄の良し悪しを苦にしないで楽しむことを大事にしたい。・猫、犬好きな方はホームの猫や犬を可愛がることで気晴らしになっている様子。・季節ごとの花見、温泉や喫茶店等への外出も気晴らしや楽しみになっている様子。・ご家族との外出をご提案することも。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物にはご家族と行くことが多く、ホーム側にいうことは今はほとんどない。所持について家族と相談するが実際に所持される方はいない。・一人ひとりの希望や力に応じて使うことができる。	○	・散歩の時に、近くのお店へ行き、ホームのおやつで何が食べたいか選んでいただく。以前していたが最近なかった（そういったことが好きだった方が退所して）ので、再び行ってみたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・支援している。・家族と都合があれば外出。・お散歩 ・喫茶店 ・ドライブ ・温泉 ・外食 ・墓参 ・お花見 ・美容院 ・受診 等々	○	・最近買い物の希望者（具体的に「○」買いにいきたいという）が減って行くことほとんど無かったが、利用者の入れ替わり等で希望があったときは対応したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・支援しています。例：大相撲観戦、てんぷらそば屋、マツタケ料理を食べに行く等々。	○	・以前はお出かけに家族が付き添うこと（市内、遠出）があったが最近減っていたので、また希望をききながら実現できるときにはしてみたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・している。来所者とリビング、居室どちらでも過ごせるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の鍵は万が一ということがあるから、家族の了解をもらってかけさせてもらっている。防犯のためにも。近隣は防犯の為に施錠を回覧板等で呼びかけられている住宅街である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・している。・職員は常に人数を把握しながら動いている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・取り組んでいる。・転倒防止の見守り、誘導、補助器具の検討 ・窒息防止の見守り（昼寝、夜間） ・誤薬防止で薬は飲む直前に職員が渡して、飲んだ後を確認 ・行方不明…人員把握 ・火災防止…火の元注意 ・異色行為のある方を把握して見守り、可能性のある物を移動する。・血圧測定 等々		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年一回くらいのペースでやっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回くらい非難訓練を行っている（3月、9月）。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・話し合っている（例：ふらつきのでてきた方の家族と）。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・行っている。スタッフ、家族、医師と情報を共有し対応（場合によっては救急隊員、訪問歯科）。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・担当の職員は把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・飲食物の工夫として、ヤクルト400を飲む、等行っている。 ・体操やマッサージを利用者とともに行う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・夕食後に一番丁寧に行っている。希望者は訪問歯科の指導、治療を受けながら行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・支援している。 ・夏場は脱水を防ぐため、水やお茶、飲料物だけではなく、すいか、桃、なし…といった果物も多くとって水分補給する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・実行している。特にうがい、手洗いは励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・努めている（調理場は定期的に塩素消毒している）		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りの植栽は季節ごとに花や実のなるものを植えている。・陶芸教室で利用者が作った作品や先生の親しみやすい作品を玄関に置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関、居間、食堂、トイレは季節感の出るものを取り入れている。・利用者にとって不快な音や光はないと思われる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・日当たりのいいベンチがある。それぞれに自分の座る位置がなんとなく決まっている。・独りになれる空間は共用空間には特に無い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・なじみの物（楽器、写真、カレンダー、本、絵…等）を置いている方がみえる。・カーテン、たんすは備え付けの物を使っている。・居室で育てている植物の成長を励みにしているとおっしゃる方がいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度調節は大きな差が無いように配慮して行っている（トイレ、廊下、居室、共用スペース、浴室等）。・換気、消臭に努めている。・各利用者個室はタイマーセットして空調をつける事が多い。就寝前や早朝、日中をだいたいどう過ごすか把握して。または本人に聞いて。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室、居間に関してはバリアフリーで、必要なところには手すりがあり、二階にはエレベーターで行き来できる。必要な方の居室にはポータブルトイレが置ける。必要であれば施設の四点杖を使える。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・「トイレ」と貼り紙をしてわかりやすくしている。・居室前に名札をつけている。・必要に応じて職員が声かけをする。・指示は特に受けなくても、他利用者の動き方や、ホーム内で慣れた時間ごとの動き方で自立して暮らしている方が多い。・ときには職員よりご家族から伝えていただく方が伝わることもあるので願います。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・外回りは散歩時に見られる季節の花や実を楽しんだり話題にしている。・ベランダには犬や猫がいるので窓から見て楽しく話題にしているときがある。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・入所者と家族と事業所との信頼関係を築けるよう力を入れている。 ・食事を手作りして季節感のあるものを出している。